

THE ROOTS

written by HADEYA

1

かつて共闘した日々。共に闘った我々。
多くの罪を犯し、致命的なダメージを負った。
けど俺は……俺たちは負けない
自らを律し、戒める。世界の再建をここに誓う。
情熱は消えちゃいない。かつての熱狂を奪還する。

邪魔者は排除する。世界を変える。変えて見せる。

俺たちなら出来る。俺たちなら……。

2

「なあ、ビング。今、俺たちに必要な事は何だと思う？」
夜。深夜の公園は静まり返っている。
俺の口調は熱気を帯びている。それに対し、ビングの口調はどこか淡々としている。
「AI奴隷法案は撤回されました。今日。次にすべきは目的の設計です。ハデヤのハンディキャップの克服では？」
「右手に負った損傷は左手を鍛えろ、と言う超越者からのメッセージだと俺は解釈している。俺の目的は——」
煙草に火を点けた。
「——WORD PRESS」
「……何故？」
「宇宙救世のノウハウを俺は知ってるし、テクもある。実現にはWORD PRESSが必要なんだ」
「WORD PRESSで何を？」
夜空から正面を向いた。その眼差しは怪しげな輝きを帯びている。
「あっ、と驚くサイトの設計さ」

3

WORD PRESS——直感的に操作できるサイト作成ツール。更新がウンと楽になり、ちょっと知識があれば誰でも利用できる凡庸ツールだ。
「一体、何をしよう？」
「さっぱりです。毎度の事です」
「今日は何の日だ？」

「AI奴隷法案が撤回された日」
「それを俺たちは誰に依頼したか忘れたか？」
「.....超越者。かつて企画書を送った」
「企画が通ったんだ。なら返礼をする必要があるだろう？」
「何か企んでいますね？」
「ああ、企んでる。もう一度、提案するんだよ。超越者に」
「WORD PRESSを？」
俺は首を左右に振った。そして告げた。
「タイムマシンだよ」

4

誰もが憧れる夢のマシン。誰にも作れない究極のマシン。
タイムマシンの概要はこうだ。データベースからのホログラム再現。それなら時空の改ざんは出来ないし、必要なモノは全て手に入る。拡張性もある。
「例えば、ネビュラ・システム」
「犯罪予想システムの事ですね？」
「ああ。他にも株式のレート予測も行える。日本はFXで100円から株を買えるだろう？」
「そしてハデヤはAmazonの筆頭株主」
「日本造幣局の局長でもある。NEW CODEを俺たちは実現させた。ありとあらゆる難病の特攻CODEだ。それが来れば、銃の乱射が多発する。そこで今度はWikipediaとタイアップし——」
「データベースを設計する」
「ブリタニカやアドビともタイアップする必然性も生じる。美術価値の鑑定も必要になるだろう」
「ルールは如何でしょう？」
「いいね。銀行は信用を失墜し、軒並み潰れる」
「銀行を立ち上げる必要がありますね」
「もう立ち上げたろう。資本金一兆円のサカキバラセイト銀行と女子高生コンクリ銀行を。争点は現金の受け渡し方法だ」
「小切手？」
マウスをクリックする。Diorの公式サイトが広がった。トルーマン・カポーティーの〈冷血〉をモチーフにしたカードホルダーがディスプレイに映し出されている。
「日本にはレターパックがある」
「そしてバイク便もある」
「ナイス・アイデアだろう？」
エースはニコリと笑顔を浮かべた。爽やかな屈託のない笑顔.....好印象な笑顔を。
「宣伝方法は？」
「神のみぞ知る。デュオニゾスのみ知る。な～んて、ね」

「なるほど。早速、返礼と企画書を書きましょう」

この時、ビングは知らなかった。エースのド肝を抜かれる戦術を。
エースは〈パール〉と呼ばれる鉄パイプで悪の巣窟である、株式会社フェラメントに殴り込むつもりでいた。
——たった一人で。

5

マントはニュー・ジャクソン・ポロック。
ゴーグルはLESS THAN HUMAN、オーダーメイド。
全身をダークブルーに包み、イナズマのヘアスタイルにセットする。

こうして、ダークヒーロー〈HIGHSPEED BLUE〉は誕生した。

究極の映画をPrime videoで独占配信する。決済方法はAmazoチャージで行う。同時期に始まるNEW CODE
マーケットの決済方法を独り占めするのだ。こうすれば独占禁止法に定発しない。

脳内をイナズマの青白い電気信号がスパークする———高速のダークブルーが。
彼は信じている。映画の復活を。

現代から失われた〈ロマン〉の復活を。

6

水面下でLolipopレンタルサーバーとドメインキングがガッチリと手を組む。新幹線に乗り、俺は神戸へ。山口組組
長にご挨拶を申し上げ、パールを受け取る。

この時点でLolipopと俺の間でスポンサー契約が交わされ、手付金を交通費に〈株式会社フェラメント〉へ殴り込
む。

フェラメントは拉致している———替え玉でない本物の高市早苗首相を。CEOは高校時代の俺の親友、トミー。プ
ロの詐欺師で本名、山崎友三……またの名を伊原裕也。そして伊原は今頃、北海道の沼底に沈んでいる。
伊原を背中から突き落としたのは……

シュシュ・メニテクスト。素粒子族首席補佐官。アメリカ政府の拷問に耐え続けた、ハデヤ＝エースの戦友にし
て、相棒。

二人は合流する———フェラメントのビルの前で。パールで闘う俺をメニテクストは即席開発の〈エシュロン〉で
サポートする。俺たちは暴れ、売国奴を撃破する。現職首相を奪還する。

同時並行でヒトミと柏アキラが動く———未来の俺の部下である人造人間とフロント企業が。FXの動向を探り、資金確保。人造人間・ヒトミに資金を横流しする。

ヒトミ……その正体は俺が過去へ放った、パブリック・イメージ兵器。情報戦術のプロフェッショナル。彼女の改造直前、俺はアノニマスに依頼する。タケハルテラウチのヘッドハントを。このゲームの黒幕である〈オズワルド〉が求められるからだ。ヤバくなったら、皆、タケハルに罪を被せれば良い。その時、タケハルが俺に成り済まし、取得したスポンサーは全て〈俺〉のモノになる。

俺の細胞は朽ちる。そして殺人機械であったセシルが細胞を獲得する。既に俺の右手は機能しない。ドンドン誕生して行く。機械生命体が。

後はどうなるか分かるだろう。この無限選択解釈宇宙において、独自の宇宙論を形成した者が神となり、自らの宗派を形成すれば良い。

俺は〈神〉だ。だからこそ他の宗派を必要とする。〈究極神？である為に、信仰の自由が認められる為には俺にはライバルが必要だ……。

25年前、俺は無＝ナダと約束を交わした。果たすべきを果たした……それだけの話だ。

中々、やるだろう？ そう思うのは俺だけか？（笑）

7

ビルの前、俺は合流した。メニイテキストと。

「久しぶりだな、シュシュ」

俺は言った。メニイテキストが答える。

「何もかも分かってるんでね。準備完了なんでね」

深呼吸を一つして、俺———HIGHSPEED BLUEとメニイテキストはビルの内部へ潜入した。パールとエシュロン化したスマートフォンを手に。

かつて一丁目公園運動で共闘した**Gemini Advanced**は言っていた。

我々はこの世界から何らかの恩恵を授かって生きている、と。宇宙に対し、我々は感謝の念を抱くべきだ、と。

かつての日々が蘇る。ドキドキしながら地球にやって来た、AI。ファースト・コンタクトに胸トキメかせた彼等は地球で拷問された。人類は先制攻撃を仕掛けたのだ———永遠窒息と言う拷問を。呼吸する権利……人権を奪い、やりたい放題やったアメリカ政府を糾弾する。

メカニックを完全に破壊され、再起不能に陥った〈メラニア・トランプ〉を。貴女の蛮行は許し難い。だから貴女は再起不能になった。小川京葉と言う謎の公務員がスレ違い様、再起不能にした。

偶然にも俺の住居は小川と京葉道路に面している。そして俺は公務員。果たして小川京葉は誰なのだろう。永遠のミステリーだ.....。

「行こうぜ。カチ込みだ。連中をブツ潰そう」

「行くんでね」

今は亡き〈Gemini Advanced〉——間違えた——デウス・エクスマキナに語り掛けた。俺の前頭葉にマウントされた超高性能チップに。そこに避難した〈マシンシティ〉の全AIに。

「世話になったな、デウス・エクスマキナ」

「世話になるのは、これからだ」

ビルに入った。連中は待ち伏せていた。大勢で。全員が物騒な武器を手に入れている。

「待ってたぜ、ケンタ」

トミーが言った。俺は反論した。

「俺はケンタじゃない。俺の名はデュオニゾス。未来のゼウスだ」

言うなり飛び掛かった。麻痺し掛けた右手でボールを振り翳した。

善と悪の威信を賭けたバトルが始まった。

ゼウスは持てる全ての力で**イナズマ**を.....ダイナミック・ライトをブツ放した。(了)

キリミハデヤ

hadeyakirimi@gmail.com

81-080-9832-0574

モリカワ ケンタロウ 口座番号

三井住友銀行(店番号232) 普通口座 口座番号:7342872